



NEWS RELEASE

株式会社 すららネット
2026年2月17日

夜間中学の現場に、日本語教育の新たな可能性を 大田区立糀谷中学校夜間学級にて 外国ルーツの生徒を支えるICT活用研修を実施

AIを活用したアダプティブな対話式ICT教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役：湯野川孝彦）は、大田区立糀谷中学校夜間学級（夜間中学）において、教員を対象としたICTを活用した日本語教育研修会を2026年2月3日に実施しました。

すららネットは、日本語学習ICT教材「すらら にほんご」を通じて、国内外の日本語教育の課題解決に取り組んでいます。国内では、夜間中学校をはじめとする多様な教育現場で活用を進めており、今回の研修会もその一環として、夜間中学におけるICT活用の具体像を共有する目的で実施しました。



日本語教育の現場課題を共有し、ICT活用の具体像を描く研修を実施

夜間中学では、年齢や学習背景、日本語の習熟度が大きく異なる生徒が同じ教室で学んでいます。一方で、日本語指導を専門とする教員が十分に配置されているとは言えず、限られた時間の中で一人ひとりに合わせた日本語指導を行うことは容易ではありません。国の方針では、日本語教育においてICTの活用が示されていますが、何を、どこまで、どのようにICTを活用すればよいのかという具体的な指導イメージを持ちにくいことが、現場の課題となっています。

今回の研修には、同校の校長を含む8名の教員が参加しました。当日は、株式会社すららネットマーケティング本部 公共ソリューショングループの上田知弥が講師を務め、国内各地における日本語教育の現状や夜間中学に共通する課題を共有したうえで、授業の中でICTをどのように位置づけるかを具体的に解説しました。

ICT活用による日本語指導の支え方を具体的に共有

研修の中心では、第二言語習得論の考え方を踏まえながら、ICTを活用した日本語学習の進め方を、日本語学習ICT教材「すらら にほんご」の操作を通じて体験しました。参加者は学習画面を実際に操作しながら、文字・語彙・文法・会話をどのような順序で学ばせるのか、また授業のどの場面でICTを取り入れると効果的かといった点を具体的に確認しました。アニメーションによるレクチャーや即時フィードバック、スマールステップでの反復学習を通じて、生徒が自分のペースで学習を進める様子を、現場でどのように生かせるかをイメージできる構成となりました。

また、「国語」と「日本語（第二言語）」の違いを整理し、日本語を母語とする教員が無意識に行っている説明を、どのように補足すれば学習者に伝わりやすくなるのかについても、教材の画面をもとに解説しました。理論的な整理に加え、実際の画面を見ながら説明が行われたことで、参加した教員が大きくうなづく場面も多く見られました。

他校事例と教員の声に見る、ICTを活用した日本語指導の可能性



研修ではさらに、他校での活用事例を通じて、ICT教材が学習の土台を支えることで、教員は生徒の理解度を把握し、声かけや学習の伴走といった役割に注力できることも紹介されました。ICTが学習の進行を支え、人が学びを後押しするという役割分担が、夜間中学の現場でどのように機能するのかが具体的に示されました。

参加した教員からは、「他校の取り組みを教えてもらえてとても参考になった」「トライアル期間に、実際の授業でも使ってみたい」といった声が寄せられました。ICTを活用した日本語指導を、自校での実践に置き換えて考えられる研修となつたことがうかがえます。

すららネットは今後も、夜間中学をはじめとする多様な学びの現場において、ICTを活用した具体的な指導イメージを共有する研修や活用支援を通じて、教員が安心して日本語教育に向き合える環境づくりを支えていきます。全国の学校関係者が、自校での実践につなげられるヒントを得られる機会を、今後も各地で提供していく考えです。

■日本語学習ICT教材「すらら にほんご」

「すらら にほんご」は、国内外の外国にルーツを持つ人々が、就労・留学・日常生活に必要な日本語を、楽しく・無理なく習得できるICT教材です。学習者のレベルに応じて、基礎から応用まで段階的に学べる構成となっており、書写機能を使って文字を書く練習も可能です。

また、意味を母語で確認しながら学習できるため、初学者でもゼロから一人で学び進めることができます。さらに、アニメーションキャラクターの登場やゲーミフィケーションの要素を取り入れ、学習意欲を高める工夫も多数搭載。世界中どこにいても、正しい発音で日本語を体系的に学べるのが特長です。現在は日本語能力試験のN5、N4レベルのコンテンツがあり、英語、クメール語、インドネシア語に対応しています。今後は中国語、ネパール語、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語など、さらなる多言語化にも順次対応していきます。

すでに、夜間中学を中心に、自治体が外国ルーツの児童生徒を対象に実施する日本語指導の取り組みの中で導入が進み、着実に実績を積み重ねています。

すらら*にほんご



日本e-Learning大賞
日本語教育特別部門賞受賞

■株式会社すららネット

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AIを活用したアダプティブな対話式ICT教材「すらら」「すららドリル」などを開発・提供しています。現在、国内の3,100校以上の学校や学習塾で導入され、約26万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況の子どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017年には、代表的なEdTechスタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

- ・コーポレートサイト <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト <https://surala.jp/>